

## 令和7年度小地域福祉会研修会での住民座談会

## 1 座談会の実施状況

## (1) 趣旨

少子高齢社会の進展、孤独死やひきこもり、いわゆるごみ屋敷などに代表されるような、個人と地域社会との関係の希薄化を起因とする社会問題が、地域共生社会を実現するうえで大きな課題となっています。

その中で小地域福祉会は、住民の困りごとを把握し、住民間で支え合ったり、専門機関につないだりしながら、困りごとを抱える個人と地域社会とをつなぐ役割を担っており、その役割は今後ますます重要なものとなってきます。

しかし、住民だけの解決が困難な困りごとでも残されており、住民と行政や福祉専門職とが協働して地域の困りごとに取り組むことが求められています。

この状況の下、令和8年度に福津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の見直しが行われます。地域福祉計画・地域福祉活動計画は、地域福祉推進の主体である地域住民等の参加を得て、地域生活課題（地域で生活するうえでの課題）を明らかにすることでより有効な計画となります。

地域が抱える問題や小地域福祉会運営上の課題などを話し合うこと、これらを参考として、より地域の実態に即した小地域福祉会活動を地域と行政・福祉専門職との協働により実現することを目的に座談会を開催しました。

## (2) 実施状況

## ①勝浦・津屋崎・宮司郷づくり地域対象

日 時：令和7年9月17日（水）14時から16時

会 場：宮司コミュニティセンター多目的ホール

参加者：25名

## ②上西郷・神興・神興東郷づくり地域対象

日 時：令和7年9月19日（金）9時30分から11時30分

会 場：福津市健康福祉総合センターふくとぴあ1階健康プラザ

参加者：21名

## ③福間・福間南郷づくり地域対象

日 時：令和7年9月19日（金）14時から16時

会 場：福津市健康福祉総合センターふくとぴあ1階健康プラザ

参加者：32名

## (3) 参加者の属性 ※実数、()内は兼務を含めた延べ数

郷づくり地域	小地域福祉会	民生委員・児童委員	郷づくり関係者	合計
福間	13 (15)	3 (3)	0 (3)	16 (21)
福間南	11 (14)	3 (8)	2 (6)	16 (28)
上西郷	0 (0)	5 (5)	0 (0)	5 (5)
神興	11 (11)	0 (3)	0 (2)	11 (16)
神興東	4 (4)	1 (2)	0 (0)	5 (6)
勝浦	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
津屋崎	6 (6)	1 (4)	1 (4)	8 (14)
宮司	8 (12)	0 (4)	9 (12)	17 (28)
合計	53 (62)	13 (29)	12 (27)	78 (118)

## 2 座談会で得られた要素の一覧

### (1) 勝浦・津屋崎・宮司郷づくり地域

- 組長が困りごとを把握できていない。
- 地域から民生委員へ情報があがってこない。
- 地域に頼ることを遠慮する高齢者が一定数いる。
- 分別収集の支援が高齢者に喜ばれている。
- 買い物支援を遠慮する方がいる。
- 子からの買い物の支援を受けている高齢者がいる。
- 参加者が増えることで外出支援の車両に乗れなくなるのではとの不安から声掛けを躊躇することもある。
- 施設入所や死亡による利用者の減少。
- 電話での安否確認でも喜ばれる高齢者がいる。
- 分別収集を地域で支え合う意識が高い。
- チーム・関係づくりができると会話ができ、盛り上がって活動できる。
- チーム・関係づくりができると少し言いづらいことも話することができる。
- 分別収集の支援を担当する方との関係づくりが見守りにつながっている。
- 受援力のある高齢者もいる。
- きめ細かな活動をすると忙しい。
- きめ細やかな支援は喜ばれる。
- 公民館がなく集まる場所がなかった。公民館ができて、集まる場を開催し、コミュニケーションが取れるようになった。
- 拠点があると集まりやすい。
- 小地域福祉会の活動に喜ぶ方がおり、やりがいになっている。
- またしてほしいと言われることもやりがいにつながる。
- 子どもがいても地域のことは妻任せで地域のことを知らなかった
- スポーツなど何かしらの方法で地域と付き合いを持っておく必要がある。
- 80歳以上の方には足が不自由になり、地域のつながりがなくなりがちの方が多い
- 地域生活から施設利用になる狭間が課題。
- 脚が悪くなるとつながりが小さくなる。
- 高齢者の孤立死には何度も遭遇している。
- 洗濯物の確認など小さな気づきを地域ですることが重要。
- 地域が本人・家族とつながっているから緊急時に対応できた。
- 空き家が多く、空き家の草刈りを市から所有者へお願いすることがある。
- 回覧板を回すのが遅い家庭が自治会役員をしているとわかる。
- 自治会でゆるやかに見守りを行うよう声をかけている。
- 分別収集の支援に必要性を感じるが、動けていない。
- 一から新しい組織を作るより、昔からある地域のつながりを活かして活用を作る方が良い。
- 思いを共有できる、つながりのある有志での取り組みが事を起こしやすい。
- 新しい住民には福祉活動だけでなく、スポーツなども含めて地域活動に勧誘している。将来的な地域の担い手になると思う。
- スポーツ活動はつながりづくりになる。
- スポーツ活動が終わってからもお金を出し合って交流を深めている。
- 福祉活動をはじめるとあたり、地域に母体がない場合は、有志の仲間づくりが必要。
- 自分から積極的に地域と関わることで、つながりを持ちながら生活できる。ただし、勇気は必要。
- 継続性が担保できない活動はしない方がよいと考えている。
- 協力者が多くいると良いと考えている。協力者が多くと参加者も知っている人が増えるので、参加しやすい。
- 一人暮らし高齢者で施設に入りたい方がいたが、順番待ちで入所できなかった。
- 医療・介護の仕組みの裏事情がわからないので民生委員として相談を受ける際に困る。
- 自治会に電球変えてほしいとの相談があった。
- 水害をはじめとして災害について考える必要がある。
- 防災訓練に意義を持たせ充実させることが必要。

- したい活動もあるが、資金面の課題がある。
  - 買い物支援のニーズはありそうだが、回覧などしても声を実際にあがらない。
  - 2以上の行政区を民生委員が担当する場合、知らない地域に訪問するので警戒される。
  - 集まりの場あると見守りをする事ができる。
  - 高齢者からも集まりの場に行く面白いという声がある。
  - ありがとうと言われるとつながりを持って活動をしていてよかったと感じる。
  - 問題を解決できなくも共有できることに感謝される。
  - 会話できることを楽しみにしている高齢者がいる。
  - サロンで子ども会と交流したり、子ども会と見守り訪問をする機会をつくり、両者が喜んでいる。
  - 新しい住民と古くからの住民の交流を深めていく方法が課題。
  - 移り住んできた人、共同住宅の人の自治会離れ。
  - 地縁組織の弱体化。
  - 古くからのつながりを活かして相談・生活支援が行われている。
  - 空き家が増加している。
  - 地域で空き家の草木対応をしていたが、限界がある。
  - 担い手の高齢化が課題。
  - 公民館がないが公共施設を活用している。
- 
- 地域のつながりがあるとニーズをつかめて声をかけることができる。
  - 地域のつながりが薄れている。
  - 見守りも両隣ですべての家ができれば地域全体で取り組める。
  - 声をかけて助け合う付き合いがしにくくなってきている。
  - 一人暮らし女性に男性が一人で訪問するのに気を遣う。
  - つながりをつくり、つながりを活かして生活支援を行っている。
  - 買い物支援に取り組みたいと思うが、担い手がいない、活動のリスクなどの話をされると話を進めることができない。
  - ニーズはつかんでいても地域に担い手や反対する方のハードルがあり、これを越えられない。
  - 動いていないのにできない・いないと反対する地域住民方がいる。
  - 双方向につながりができていないと声掛けはしづらい。
  - 地域福祉活動の意義に悩んだことがある。
  - 自身の中で地域福祉活動に取り組む意義を持つことがやりがいにつながる。
  - 対象者のことを考えて支援に取り組む。
  - 対象者がどのように感じているか不安に感じることがある。
  - よく付き合って話せるようになると賛同して活動に参加してくれる。
  - 進んで地域福祉活動をしようとする方は少ない。
  - 小さいころからつながるアプローチをすることで福祉に触れる機会を作れる。
  - 民生委員は児童委員を兼ねているが児童委員として活動ができていない。
  - 児童委員として児童ともつながれると良い。
  - 年を取ってから外出するところがない。
  - 民生委員から小地域福祉会の必要性を訴えても、地域の理解が得られない。
  - 車を運転しなくなると外出に困る。
  - ミニバスが動かない土日が不便。
  - 公共交通が不便で免許を返納したくてもできない。
  - 公共交通の話し合いで意見しても意見が通らない。
  - 津屋崎には買い物難民がいっぱいいる。
  - 自分が納得いけるもの・方法で買える買い物支援が必要。
  - 移動販売が公民館にきているが、荷物を持って帰るのが大変。
  - 自身が支えを必要になる時を考えて体制を作りたいが、地域の理解が得られない。
  - 民生委員1人で地域全体を見守ることが難しい。
  - サロンに参加してほしいが、参加してくれない。
  - 地域につないだ後の専門機関の支援が切れることへの問題意識。
  - 住民への福祉サービスの情報提供の不足。
  - 地域福祉活動の担い手不足。

- 地域が同じ方向を向いて地域福祉活動を考えることへの困難を感じる。
  - 若い方には、組長をやってくれる方もいるが、全員ではない。
  - 地域のことを理解していない方から文句がでる。
  - サロンへの参加者を増やすのが難しい。
  - 担い手不足。
  - 新しい地域の担い手を増やしたいが中々増えない。
  - チラシを配っているが、地域活動に理解を示してくれないように感じる。
  - 他者から地域の活動が好きやねと言われるが、そう思っていないこともある。傷つく。
  - 地域の集まりに参加しない理由として人間関係がある。
  - 地域の集まりに参加しない理由として日程を忘れる、覚えられないということがある。
  - 声をかけても集まりに参加しない方がいる。
  - 来ない方が来られるような場づくりの必要性。
  - 顔を合わせたときに声掛けをするようにしている。つながりや顔を合わせる機会が増えれば自ずと参加が増える。
  - 子ども会の衰退。
  - 子ども会の役員が負担になっている。
  - 組長も負担になり、組ごと自治会を抜ける地域もある。
- 
- 高齢者が増え外出する人が減り、近所とのあいさつ・会話が減少している。
  - 参加者が固定化している。
  - 出てこない方に参加してもらうかが課題。
  - 出てこない方に民生委員が訪問するがそのような方は心を開かれない。
  - 地域の担い手の高齢化が見込まれ、地域活動の継続が今後の課題。
  - 地域の中でも情報が入らなく、得られなくなっている。
  - 地域の情報把握、民生委員や自治会だけでは困難になってきている。
  - 地域の担い手がいない。
  - 声をかけてもなかなか出てこない。
  - 参加者が増えないのが悩み。
  - 新しい担い手に増えてほしい。
  - 個々人の楽しみを重視する価値観の方が増えているように感じる。
  - メンバーが固定化しているので新たに入るのに困難を感じているように思う。
  - 行政区が広く、歩いて公民館に行くことが困難。
  - 元気で意欲がある方の参加が多い。
  - 本当に来ていただきたい方の参加がない。
  - 初参加のハードルが高い。
  - 暑さから外出していない高齢者がいる。
  - 足がなく外出もしていない高齢者がいる。
  - 料理をしたいが、買い物に行けないので作れない。
  - 地域活動の情報が必要な方に入っていない。
  - 自治会離脱する高齢者が増え、回覧板では情報が届かない。
  - 人間関係を嫌い外出支援に参加しなくなる人もいる。
  - 困った時に連絡をくれて、地域との関係を保ってくれている方はまだいいが、疎遠な人への対応に困難を感じる。
  - 無理に引き込めないので、地域として手立てがなくなる。
  - 民生委員の担い手がいない。
  - 道の凹凸で転倒する方がいる。
  - 個別に買い物に連れて行ってほしいというニーズがある。
  - 人間関係のいざこざがあるなかで、なるべく多くの人に支援を届けることに困難を感じる。
  - 人間関係から参加を遠慮する方もいる。
  - 自治会長に文句がくることもあるが、どうにもできないことがある。
  - 避難所が浸水したことへの不安。
  - 地域のつながりが希薄化。
  - 地域で災害復旧作業をしたが、行政が廃棄物を取りに来ない。

- 災害時は自助で精いっぱい地域まで手が届かなかった。
- 自治会と民生委員の関係及び連携に問題がある。
- 小地域福祉会と民生委員が一緒になって訪問活動をしている地域がうらやましい。
- 地域の担い手が不足している。
- 現役世代が地域を担えるよう会議時間や役割を調整している。
- 自治会に入ってくれない。
- 当初から自治会長に挨拶する人は自治会に加入する。
- 自治会未加入者に地域があきらめている感がある。
- 自治会の加入状況が市報配布で把握できていた。
- 多様性を認めるのは必要だが、地域に支えられていることは住むうえで感じてほしい。
- 介護保険を利用すると地域から離れていくように感じる。
- ミニバスを上手に活用している人は時間をみてうまく外出している。
- 地域福祉活動の財源があればさらに活動できる。限られた中でやりくりしている。

- 参加者数を増やしたい。
- 児童との関わりを持ちたい。
- 地域の間人関係で参加しない方がいる。
- お茶の配置でグループを分ける工夫をしている。
- 地域福祉の意義ややるべきことがわからない。
- 参加者の固定化。
- 活動内容を参加者が事前にわかるよう工夫している。
- 活動したい思いがあるが、地域の制約がある。
- 本当支援を届けたい方に届かない活動になっている。
- 高齢化により自治会を離れる方が増加。集まりにくさを生む。
- 来てほしい方の友人から誘ってもらおう工夫をしている。
- (特に男性)集まりに仲間が来なくなると一緒に来なくなる。
- サロンに来られない方へは見守り訪問を行う。
- 民生委員だけでは手が回らない。
- 行事前にスタッフで手分けして声掛けをしている。
- 見守り活動が行き届かないところを、地域のつながりが補っている。
- 家が建ち見知らない人が多くなった。
- 地域のつながりが民生委員だけになっている人がいる。
- 児童と高齢者の接点がなくなってきている。
- 個人での活動の限界を感じている。
- 地域福祉活動の組織化が必要。
- 地域の仲の良さが必要。
- 地域で話し合える風潮が必要。
- すぐに住宅改修が必要でも、介護保険は時間がかかるため地域で支えている。
- 庭の草取りで困る高齢者がいる。
- 困った時の相談先がわかりづらい。
- 専門機関の動きが悪い。

## (2) 福間・福間南郷づくり地域

- 現役世代の地域参加が課題。
- 親子の参加も当初から受け入れる工夫。
- 子どもが参加すれば親も参加する。
- 隣近所の仲が良い。
- 公民館まで来ることができない方が増加している。
- 声掛けをしても拒む方がいる。
- 高齢者が増え、既存の行事のキャパシティを超えることがある。
- 参加者が固定化している。
- 新しく参加する方が少ない。
- 担い手が見つからず、生活支援活動の限界を感じる。

- 具体的に活動を周知すると利用の声があがらない。
  - 参加者の固定化。
  - 回覧板からポストインへ周知方法を変更する工夫が参加者増につながっている。
  - 若い世代の地域行事への参加が課題。
  - 参加者が固定しているので、安否確認ができる。
  - コロナ後、地域行事後にあった自然な交流の期間が減少
  - 参加者、スタッフともに高齢化。
  - 後継者がいない。
  - 地域福祉活動のPRが必要。
  - 地域活動について知らない人が増えている。
  - 民生委員になるまでは民生委員の活動を知らなかった。
  - 地域のことを知ってもらうことで、声をあげたり、参加する人が増える。
  - 空き家の庭木の管理が課題。
  - 地域生活課題を把握できていない。
  - 高齢化による分別収集場所の運営の負担。
  - 自治会加入率の低下。
  - 新しい住民との関係づくりに苦慮している。
  - 個人情報保護が活動の障壁になっている。
  - 参加者が固定化している。
  - 手渡しで案内すると参加者が増えた。
  - 参加者の固定化。
  - 運転免許を返納する高齢者の増加。
  - タクシーが来ない。
  - 免許返納後の移手段の課題。
- 
- 地域福祉活動をはじめて、地域のことを理解できた。
  - ありがたい言葉がやりがい。
  - 地域で児童へのあいさつを継続していると、自ずと挨拶をするように児童が変化した。
  - 地域や住民の良い変化をみられるのがやりがい。
  - 役員が年度交代のため、活動に継続性がない。
  - 集まりの場に出ることが安否確認になる。
  - 集まりの場に来ていなかったら電話連絡する。
  - 用事があることが自己満足だが生きがいになっている。
  - チラシを回覧しているが見ていない人がいる。
  - チラシを全戸配布する工夫で参加者が増加した。
  - 役員が安定すると楽しみながら事業が検討できる。
  - 参加者の固定化。
  - 参加者のいい感想を聞けるのがうれしい。
  - 役員をして地域のことがわかった。
  - 役をしないと地域のことがわからない。
  - 地域との接点を持つ機会づくりが担い手づくりにつながる可能性を感じている。
  - 運転免許証返納に伴い、公民館に行けなくなる高齢者がいる。
  - 草刈り・剪定が困難な高齢者がいる。
  - シルバー人材センターが混み合っていて、剪定・草刈りを頼めない。
  - 頼ってくれれば対応できるが、頼ってもらえない、遠慮される。
  - 新しい住民との関係づくりの課題。
  - 自治会に入るメリットを感じないと言われた。
  - 粗大ごみの処分方法が変わり高齢者一人で手続きをしなければならなくなった。
  - 若い世代と高齢者のコミュニケーションを取る機会がない。
  - 空き家の庭木の管理がされていない。
  - 困っている人が相談先を知らないように感じる。
  - 相談先がわからない。
  - 地域で困っている人を見つけても、どの相談先を紹介すればよいかわからない。

- 分別収集は安否確認を兼ねている。
  - 子ども会に入ると役員をさせられるという先入観から加入しない。
  - 60代は仕事をしているという先入観から声をかけていなかったが、かけると協力者がいた。
  - 役がくるのが嫌で子ども会をやめる。
  - 夏休みに公民館開放をしたが、保護者が子どもだけでは行かせられないと参加がなかった。
  - 地域の担い手がいらない。
  - 担い手づくりは初めに関わりを持つことが重要。
  - 土日だけでも自治会活動はできる。
  - 適切な人を適切な地域活動にコーディネートする力が必要。
- 
- 回覧板を見ていない。
  - 声かけをしても参加者が増えない。
  - 公民館が高台にあり、参加の障壁となっている。
  - 若い世代のようにスマホを使って活動を周知できれば良いが、高齢者は対応できない人が多い。
  - 行きたいが天候や環境の影響で集まりの場に参加できない。
  - 引きこもっている高齢者を連れ出したいが、叶わない。
  - 参加者が固定化している。
  - 外出支援活動団体の登録要件を月1回にしてほしい。
  - 公民館までの移動手段が課題である。
  - 固定化した参加者の中に入るのが困難。
  - 手を引っ張るくらいの気持ちで誘う必要がある。
  - 人を誘う時は、集まりの障壁に配慮することが必要。
  - 毎月のテーマを決めるのが難しい。
  - 小地域福祉活動の財源の問題。
  - 物で釣ると参加する人がいる。
  - 空き家の庭木管理の問題がある。
  - 空き家の所有者がわからず連絡が取れない。
  - 地域のつながりが強い人と全くない人で二極化している。
  - 新しい住民が自治会に加入しない。
  - 地域福祉活動の担い手の高齢化。
  - 子ども会があった時は、親と地域の接点があったが、なくなって親と地域との接点がなくなっている。
  - 親が役員をする子ども会の仕組みをやめ、地域で子どもの行事を企画するように変更した。
  - みんなを巻き込んで夏祭りを開催している。
  - 組長になれない人が続出し、すぐに組長が周ってくる。
  - 実際にやるとそうでもないが、役員と聞いただけで腰が引ける住民が多い。
  - 役の活動内容の伝え方を具体的にするなど見直す必要がある。
  - 地域福祉活動の財源が欲しい。
  - 学校と連携して児童と高齢者の接点を作ることが必要。
- 
- 新しく居住した若い世代との世代間のギャップがある。
  - 参加者の固定化。
  - 公民館まで来られない方に手が届くように弁当を作り訪問している。
  - 対象者数が多くなり、対象を絞らざるを得なくなった。
  - 地域団体が協力して事業を行っている。
  - 子供の喜ぶ顔が見られる。
  - 参加者の固定化。
  - 年齢構成がいびつで、地域の新しい担い手となる60歳代が少ない。
  - 若い世代は習い事や塾についていくので休みの日の日中も地域にいない。
  - 子ども会行事に必要なものは小地域福祉会が引き継いで行っている。
  - 高齢者はスマホが苦手。
  - 関わるまで地域福祉活動をしなかった。
  - 地域福祉活動に関わって、自身の将来のことを考えるようになった。

- 新しく居住する住民が参加しやすい行事を企画する。
- 役員に負担がかからないよう工夫している。
- サロンに来たくても来られない高齢者に弁当をもって訪問する。
- 力がある行事は中学生の協力を得ている。
- 公民館で移動販売を行うが、歩いてこられない高齢者がいる。
- 移動支援を考えるが、事故のリスクを考えると取り組めない。
- 世帯が多く、サロンへの送迎を個別に行えない。
- 昔からの友人が多く、高齢になってもつながっている。
- 活動を広げたいが、担い手が足りない。
- 子の部活に随行するなど若い世代は地域参加する時間がとりづらい。
- 粗大ごみ収集方法が変わり分別収集支援のニーズが減った。
- 活動を始めようとするとなりの人が大変になるという声上がる。
- 働きながら地域の役は難しい点がある。
- 地域活動を知ろうとする気持ち・知る機会が少ない。
- 働いていると地域活動に目が向きづらい。
- 地域活動のPRを回覧板で行うが反応がない。
- 回覧板で一世帯一部のように回る郷づくりの広報誌が取られていない。
- 郷づくり広報誌を戸別配布している。
- 回覧が早く回るが、見ていない。
- 重要な案内は、回覧でなく組長にポスティングしてもらう。
- 気軽に声をかけて、来なくなった理由を聞けない。
- 組長として地域住民に声をかける際に、個人情報の問題に気を遣う。
- 年齢を気軽に聞けない。
- 地域に個人情報を出したくない。

- 参加者の固定化。
- 子供と交流する機会を作りたいが、時間が合わない。
- 民生委員と協力して声掛けをするとサロンの参加者が増えた。
- 男性参加が少ない。
- 買い物支援をしていると連れて行ってほしいと言われる。
- 移動販売の客が少ない。
- 移動販売は助かる活動だと考えている。

### (3) 上西郷・神興・神興東郷づくり地域

- 地域とのコミュニケーションを取る機会をつくる必要がある。
- 地域で生きがいづくりを行う必要がある。
- サロンを楽しみにしている高齢者がいる。
- できる人ができることをやっていかないと活動が続かない。
- 参加者数が少ないのが課題。
- 地域で若い方も入れてバンドを組んでサロン等で演奏。子どもも参加している。
- 人の世話にならないよう自分で頑張ろうとする方が多い。
- 外出支援に取り組むたいが、事故のリスクを考えると取り組めない。
- 本当に悩んでいることを把握できているか疑問である。
- 小地域福祉会の対象が高齢者と地域から認識されている。
- 複数回訪問を続けることで話してもらえる関係ができる。
- 古い住民と新しい住民との交流が課題。
- 通院や買い物の移動が課題。
- 自治会から脱会する方がいる。
- 自治会を脱会した方を民生委員として訪問したら喜ばれた。
- 中心部だけで市の行事等を開催されても参加できない。
- ひきこもりの方を地域で把握できている。
- 役員の担い手がいない。
- コロナの間に役員が年を取り活動が縮小してしまった。

- 地縁だけでなく思いを共にした活動の方が継続する。
  - 自助を努力して何とか生活している方がいる。
  - 坂の上なので移動支援が課題。
  - バスの本数が減少している。
  - 生協を活用して何とか生活している姿が見受けられる。
  - 買い物に行けないと見て買う楽しみがなくなる。
  - 買い物に行けないと外に出る機会がなくなる。
  - 不燃物の出し方を再考する必要があると感じる。
  - 分別収集が特に若い世代の組長の負担になっている。
  - 分別収集は、住民の様子を見る機会になる。
  - ソフトボール仲間が分別収集の支援を行っている。
  - 現役世代のころから仕事以外のつながりを持つことが必要。
  - 粗大ごみの出し方の変更によるニーズの変化。
  - 地域のつながりを活かして声掛けをして次世代の役員を発掘した。
  - 新しい住民にも声をかけて参加してもらおうと、地域になじんでいかれている。
  - 家族の支援状況が聞き取りづらい。
  - 庭の草取りが困難。
  - 困っていそうだが、困りごとがないと言われる。
  - 顔見知りが多いと民生委員として訪問しやすい。
  - 地域活動を手伝うことで顔見知りが増えてきた。
  - 郷づくりの役員ががんばっている。
  - 災害に意識付けをおこなう必要性を感じる。
- 
- サロンをはじめ、行く場所がないと話す高齢者の居場所ができた。
  - 一人でテレビをみるより、誰かとあって話をする方がよい。
  - 集まる場所がない。
  - 民生委員の訪問に好感を持つ方と拒否する方がいる。
  - 民生委員として拒否される方を訪問することの意義に疑問がある。
  - 運転免許証を返納して買い物に困っている方がいる。
  - 見守り訪問を遠慮する方が多い。
  - 市配布の名簿を見てひとり暮らし高齢者を訪問したが、実態と異なり怒られた。
  - 地域との密接なつながりがある。
  - 地域の困りごとはあまり聞かれない。
  - 運転免許証を返納した方が買い物に困っている。
  - 地域で乗りあって買い物に行くことがある。
  - 子が来て買い物に連れて行ってくれる。
  - 公民館まで距離があり、行くことができない。
  - 定期的に集まる機会がない。
  - 年を取ると一人にならざるを得ない。
  - ミニバスの便が悪い。
  - 荷物を持ち坂を上って帰宅することに困難を感じる。
  - 子ども会が休会した。
  - 活動のアイデアを役員全員で出し合っている。
  - 参加者の固定化。
  - 参加者数が増えない。
  - 参加者が同じだとコミュニケーションを取りやすい。
  - 地域福祉活動に若い世代に触れてほしい。
  - 見守りで個別訪問しても出てこない方が多い。
  - 見守り訪問を警戒されている。
  - 孤独死を不安視している、
  - 週1回の体操がリハビリにもなり助かっている。
  - 参加者の固定化。
  - 来ない人たちを誘いたいが、その方法がわからない。

- 小地域福祉会の活動に不信感を持たれている気がする。
  - 新しい参加者に参加してほしい。
  - 参加者が高齢化し参加できなくなっている。
  - 子ども会が休会し、地域の児童に対する活動が少なくなった。
  - 小地域福祉会の活動に親子が参加できるようにしている。
  - ミニバスが不便。
  - タクシーが来ない。
  - 高齢者が買い物に困っている。
  - 買い物に困っている。
  - 重たいものが持てなくなり、小分けして購入している。
  - タクシーの予約ができず、希望の時間に移動できない。
  - 運転免許証を返納した後の移動手段に困る。
  - 子ども会が解散し、児童が地域参加する機会が減少した。
  - 地域の担い手の高齢化。
  - 60歳代が働くようになり、地域に参加しなくなった。
  - 年を取り、公民館まで行くことが億劫になっている高齢者がいる。
  - 役員を引退しても小地域福祉会の活動に参加してくれる方がいる。
  - 役員の担い手確保に、声掛けをがんばらないといけないと感じる。
  - 小地域福祉会がなくても、自治会が活動できれば活動が継続できる。
  - 災害時には地域のつながりが必要。
- 
- 郷づくりや民生委員など地域の横の連携が必要だと感じる。
  - 高齢者の居場所づくりが必要。
  - 地縁組織への参加が任意になっていることに疑問を感じている。
  - 地域のつながりを活かして小地域福祉会を結成した。
  - 地域の活動が輪番になり、一緒に協力しようという雰囲気がない。
  - サロン活動への参加を嫌がる方がいる。
  - 外出支援に取り組みたいが、運転手が確保できない。
  - 近所の人がかけて、必要なものを買ってきてくれる。
  - 居場所を可能な限り確保していきたいと考えている。
  - 足が弱くなり、サロンに参加しなくなる方がいる。
  - サロンへの送迎を行いたいと考えている。
  - 家に庭の草取りに困っている。
  - 小地域福祉会があることで、民生委員が活動しやすいように感じる。
  - 交通量が多く、歩道がないので公民館まで行くことができない。
- 
- 公民館に集まる機会がないので作りたい。
  - 買い物支援が課題となっている。
  - 買い物支援は自治会だけでなく広域で動く必要性を感じている。
  - 役員の負担感がないように地域福祉活動に取り組んでいる。
  - 役員になりたくない方が多い。
  - 地縁の集まりが少なくなっている。
  - サロンの当初からの参加者が高齢化し、参加者が減少している。
  - 課題に対して何とかしたいが、役員も高齢化しており新しい活動が難しい。
  - 地域の担い手になりたがらない人が増えている。
  - 自治会に入ることが多くいると、多くの交流の場ができる。
  - 地域の活動が負担で地域とのつながりをなくしていく方がいる。
  - 地域のつながりがない地域では、ちょっとした声掛けができていない。
  - 地域の仕組みがわからない人が増えている。
  - 若い世代との地域とのつながりに関する考え方のギャップを感じる。
  - 自分のことは自分ですという考え方が根強い。
  - 地域とつながるメリットを感じていないと人が増えている。
  - 地域に参加していると地域の仕組みを知ることができ、必要性を感じるようになる。

- 地域参加が任意なので、参加するよう勧められない。
- 地域参加しない若い世帯があるが、子どもができれば参加してくれるのではないかと期待している。
- 役員が負担になり、子ども会が衰退している。
- 子どもを中心に行事を行い、親が地域参加する機会を作っている。
- 昔は、地域参加は当然のこととして育ってきた。
- 地域のつながりの希薄化への対応に手詰まり感がある。
- 中学生が高齢者の生活支援をとおして地域参加に参加する機会をつくったが、自治会長が変わりなくなってしまった。
- 分別収集場所が遠く、出すことができない高齢者がいる。
- 地域の人に毎回支援を頼むのが億劫。
- 情報提供がインターネットに移行してきているが、高齢者は対応していない。
- 物を見て買い物したい。
- 死後の手続き等を子に伝えておく必要性を感じる。
- 地域福祉活動にはチームで取り組む必要性を感じる。
- 役員は実際にやってみるとそこまで負担感を感じない。
- 自分も楽しみながら地域福祉活動に取り組んでいる。